

N E X T

医療機器開発センター

寄付報告書 2024年度

ご寄付いただきありがとうございました。
2024年度NEXT寄付収支をご報告いたします。



NEXT 1年間の活動成果と今後

医療機器ベンチャーの創出を後押し

革新的医療機器を生み出す企業の誕生を後押しするため、起業をめざす医師やエンジニア、ビジネスパーソンに向けた人材育成プログラムを運営しています。医療機器開発や起業に必要な知識とマインド・視点を深めて高めてもらう内容で、2024年度は新たに新規参加の19名を含む、計31名の方にご参加いただきました。



医療機器の世界展開支援

世界中の患者さんに恩恵をもたらす医療機器の開発を目指すNEXT医療機器開発センターでは、国立がん研究センター発のベンチャー企業を含む日本企業に対し、世界展開の支援を行っています。

米国に拠点を置くベンチャーキャピタルやインキュベーターとも連携し、NEXT医療機器開発センターのメンバーもリスクリングしながら、世界展開のエキスパートを目指し、日々支援先の企業と共に成長しています。

1年間の活動成果と今後

NEXT医療機器開発センターは2017年の開設以来、最先端の医療技術の提供、次世代医療機器や技術の開発、がん医療におけるリーダーの育成等に取り組んで参りました。

2024年度は国立がん研究センター認定ベンチャー、株式会社Jmeesが開発した内視鏡外科手術の画像支援ソフトウェアをはじめとした複数製品が臨床応用に至りました。こうした実績は、皆様からご寄付のおかげであり、心より感謝申し上げます。今後も、皆様のご支援を大切に活かしながら、使命の達成に向けて取り組んでまいります。

寄付収支報告

収入	(円)
入金年度	入金額
前年度繰越	63,094,013
2024年度	10,157,204
合計	73,251,217

次年度繰越	48,265,333
-------	------------



支出		(円)
使途	費目	支出額
1.最先端の医療技術を提供	データ通信料	154,440
		154,440
2.医療機器や技術の開発	データ通信料	210,450
	その他委託費	7,493,168
	雑費	105,000
	消耗器具備品費、消耗品費	588,170
	(医) コンピュータ運営委託費	2,640,000
	(医) 医薬品費	519,332
		11,556,120
4.医療者の育成	医療消耗器具備品費	3,625,327
	消耗器具備品費、消耗品費	705,052
	データ通信料	23,265
	その他器械賃借料	7,913,400
	修繕費	38,280
		12,305,324
その他	負債振替	970,000
2024年度支出合計		24,985,884

1.最先端の医療技術を提供

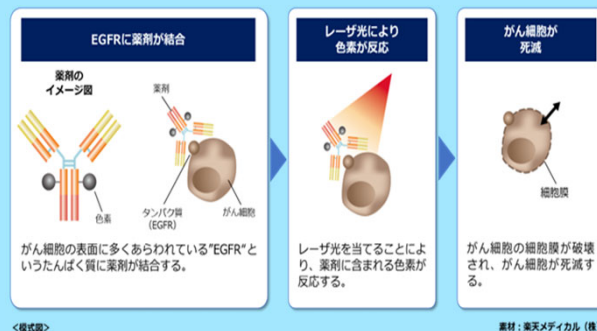
がん細胞を光で狙い撃つ内視鏡治療をめざして

消化管内視鏡科 矢野 友規

がん細胞に集まる薬剤（抗体薬と光感受性色素の複合体）を投与し、690nmのレーザー光を内視鏡を用いて照射し、がん細胞を選別的に死滅させる光免疫療法（アルミノックス治療）の開発を進めています。

現在、既存治療で根治が困難な食道がんを対象とした医師主導治験を実施中です。

内視鏡を用いてがん細胞を光で狙い撃つ新たながん治療の実現を目指しています。



2.医療機器や技術の開発

満足度の高い甲状腺手術を普及するために

頭頸部外科 西谷友樹雄

甲状腺がんを含む甲状腺疾患は首の目立つ位置に手術跡ができてしまいます。そこで整容面での満足度向上を目指し、頸部を切らない内視鏡下甲状腺手術が開発されましたが、難易度が比較的高く十分に普及していない現状があります。私達は機器の整備や動画収集に寄付金を活用させて頂き、手術中の重要な解剖を認識するAIの開発を行い、報告することが出来ました。今後は精度と汎用性を高め安全で整容性に優れた手術の普及を目指します。



3.新医療を臨床現場に

蛍光尿道カテーテルを医療現場へ

手術機器開発推進室 長谷川 寛

直腸がんの手術において、再発を防ぐため、がんから十分な切除範囲を確保する必要があります。一方、直腸に近接する尿道の損傷を避けるため、尿道の位置を正確に認識することが重要です。当院とカーディナルヘルス株式会社は、近赤外光照射下で蛍光反応を示すNIRC蛍光尿道カテーテルを開発し、2024年3月に医療機器として承認されました。2024年7月にこのカテーテルを用いた手術を始めて実施し、2025年4月時点で計7例の患者さんで手術を実施し、安全な手術が提供されています。



4.医療者の育成

若手医師のための内視鏡治療トレーニング

消化管内視鏡科 砂川 弘憲

早期の食道・胃・大腸がんに対して行われる、胃カメラや大腸カメラを用いた内視鏡治療には、高度な技術が求められます。

皆さまからのご寄付により、トレーニング用の器具や練習用の粘膜モデルを整備することができ、若手医師が技術を習得し、安全な医療を提供できるよう活用させていただいております。いただいたご支援は、若手医師の成長を後押しし、未来の医療の質を高める礎となっています。

